

教科	公民	科目	公共			単位数	2
学科	工業科	履修学年	1	コース		必修・選択	必修
教科書	実教出版『公共』新訂版 共につくる未来						
副教材等							

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
指導の重点	生徒の興味・関心に配慮しながら、現実社会における様々な問題を身近な問題として考えさせる。また現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理 第5章 民主国家における基本原理	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・人間は、個人として尊重されるべき存在であることや、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成することについて理解させる。 ・各人の利害を公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることが必要であることを理解させる。	定期検査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (24)	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加 2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活	・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・現実社会の事柄や課題を基に、憲法、法律、規範等に基づいて各人の意見や利害を調整し、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていることについて理解させる。 ・現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。	定期検査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	3 学期 (20)	3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 第2章 国際経済の動向と課題	・国際社会における我が国の役割など現実社会の問題や課題について理解させる。またグローバル化がすすみ、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていることを理解させる。	定期検査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価の観点 の趣旨と評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対して理解している。 諸資料から公共に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。		現実社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとし、また国民や国家の利害調整することについて学習した内容を、社会生活に生かそうとしている。
	[評価方法] 定期検査や小テストの問題で出題し、それに対する解答等で、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。		[評価方法] 定期検査や小テストの問題で出題し、それに対する解答、授業中の発言や発表、レポート等での表現等で、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。	[評価方法] 授業中の取り組み、発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。